

# 平成23年度 学校自己評価システムシート（県立南稜高等学校）

2月9日作成

目指す学校像	学力、体力、社会規範を身につけ、国際社会で自信と誇りを持って生きる若人を育成し、地域の信頼に応える学校づくりに努める
重点目標	1 授業の充実と総学習時間の拡大 2 基本的な生活習慣の定着、社会規範意識の醸成 3 一人ひとりの進路の充実と進路実現を通じた成長の最大化 4 家庭・地域とのコミュニケーション強化と、家庭教育との連携強化

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	12名
	事務局（教職員）	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。  
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標					年 度 評 価（2月 1日 現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習時間はわずかに増加したが、まだ学習習慣が確立していない生徒が多い</li> <li>授業中のクラスの雰囲気、集中力にバラツキがあり、授業満足度もあまり高くない</li> <li>本年度から1単位増となり、授業時数が増える</li> <li>公開授業や授業アンケート等の実施は増えているが、その結果の共有や有効活用が課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員の授業改善の取り組み、教員間の連携</li> <li>生徒の予習・復習を含めた学習習慣の確立と総学習時間</li> <li>生徒の授業に取り組む姿勢</li> <li>単位増の成果、影響</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業公開と連動した授業改善の研修の実施</li> <li>校外(他校や民間事業者)のものも含め、授業力アップのための研修参加機会の拡大</li> <li>チャイムtoチャイムの授業実施の徹底</li> <li>生徒の学習習慣の確立に向けた、教科間、部活顧問等での情報共有、調整(宿題等の総量や進学セミナーと部活日程等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業公開の実施回数、講座数、参加者数等</li> <li>校内での授業改善に関する研修の実施状況</li> <li>校外の研修への参加状況</li> <li>生徒アンケートの授業に関する質問への回答状況</li> <li>単位数増の成果や影響に関する生徒、職員の反応、評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校外(他校や民間事業者)の研修への参加、校内での研究公開授業等の実施も増えた。参加者増は限定的</li> <li>生徒の家庭学習時間は着実に増加傾向だが、授業準備や授業に取り組む姿勢に関してのアンケートでの自己評価は低いままである</li> <li>夏期セミナーの出席状況は微増であった</li> <li>学力は上向いている</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業公開の実施者と同時に、参加者(見学者)も増えるように、実施時期や周知の方法を工夫する</li> <li>授業の内容や方法の改善と合わせて生徒の授業準備、授業を受ける姿勢についても改善の余地が大きい</li> <li>部活動を続けながら、宿題やテスト勉強、セミナー参加などがしやすい環境作り</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>概ね基本的な生活習慣は身につけている。</li> <li>積極的な態度やチャレンジ精神にやや欠ける</li> <li>遅刻は減少傾向だが、学年が進むに連れて増えている</li> <li>大きな交通事故はなかったが、自転車事故件数は高水準</li> <li>制服の着こなしについては、改善の余地がある</li> <li>生徒の8割が卒業までにアルバイトを経験している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間厳守の意識づけ</li> <li>清潔感のある身だしなみ</li> <li>自転車マナー、安全運転の取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通年の校門指導、ノー遅刻デー設定等による遅刻指導の徹底</li> <li>学年間での情報共有による足並みのそろった身だしなみ指導</li> <li>「自転車マナーアップ推進校」指定の生徒、保護者への周知</li> <li>校門前、周辺交差点指導の実施</li> <li>自転車傘さし運転禁止、レインコート着用の徹底</li> <li>保護者との共通理解、連携の促進</li> <li>近隣自治会への交通安全、防犯に関する情報提供の依頼</li> <li>部活動や行事等への積極的な取り組みの奨励、成果の広報、激励による自己肯定感、達成感の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻者数の推移。前年度比</li> <li>生徒アンケートの時間を守ることにに関する質問への回答状況</li> <li>身だしなみ指導の実施状況</li> <li>交通事故発生状況、件数</li> <li>自転車マナーアップ、傘さし禁止に関する取り組み実績</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻者数は、前年比2割以上減り改善しているが、さらに改善の余地がある。遅刻ゼロデーなど新たな取り組みもあり、生徒の意識は高まっている</li> <li>身だしなみも改善傾向。指導が強化されているが、浸透しきれない面もある</li> <li>自転車に関する安全意識は向上しつつあり、事故も減っている。自転車の傘さし運転、イヤホン使用等も減少しているが、まだ徹底されていない</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻数のさらなる削減に向けた継続的な取り組みが必要</li> <li>身だしなみについては、生徒の自覚を高める必要がある。指導基準等については生徒、保護者への周知、説明を継続する</li> <li>自転車安全運転をはじめとした交通マナーについても取り組みを継続</li> <li>携帯電話、ネット利用に関する意識の向上を図る</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>進学希望者の増加、就職希望者の減少が続いている</li> <li>進路指導について、新たな試み、改善が続いている</li> <li>生徒の進路行事や進学セミナー等への取組みに積極性が欠ける</li> <li>一般受験、センター試験受験は、増えているが低水準</li> <li>学力上位層、意欲上位層を伸ばす取り組みが確立していない</li> <li>進路に関して保護者との情報共有、連携の機会が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路学習の取り組み、進路目標の決定状況</li> <li>推薦、AO、一般入試のバランス</li> <li>センター試験、上位校受験の取り組み</li> <li>進路に関しての保護者との意思疎通、情報提供の状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路意識の未熟な生徒に将来展望を持たせる対策の検討、実施</li> <li>多様な進路希望に対応した情報収集、行事への反映、タイムリーな情報発信</li> <li>学習状況や模試の結果等のデータの蓄積、利用促進のための研修実施</li> <li>大学進学希望者へのセンター試験に向けた組織的な指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての進路に対応し、早期の進路意識形成を促す3年間の計画的な進路指導の整備、実施状況</li> <li>進路指導に役立つデータの活用状況</li> <li>センター試験、一般入試、上位校受験の状況</li> <li>保護者との情報共有の方法、回数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>早い段階から、進路を意識する生徒が増えている</li> <li>進路指導情報が保護者に十分に伝わっていない可能性がある</li> <li>教員の進路情報活用に向けた動きが活発化している</li> <li>センター試験受験者は4割増えたが、大学進学希望者に占める割合は微増に止まった</li> <li>私立上位校受験状況は未確定。国公立受験者は減った</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>進学については、一般入試の比率を高めて、入試形態(推薦、AO、一般)のバランスを改善する</li> <li>就職も含めた多様な進路それぞれへのきめ細かいサポートの継続</li> <li>一般受験希望者のサポート強化</li> <li>模試の活用等を定着させる</li> <li>進路情報活用の促進</li> <li>進路についての保護者との情報共有の強化、多様化</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の学校に対する満足度が高い</li> <li>入試倍率が高い</li> <li>保護者や学校関係者からの意見を取り入れる機会が少ない</li> <li>メール配信サービスがうまく活用できていない</li> <li>学校HPは充実し閲覧数が増えた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者等への情報発信状況</li> <li>保護者や学校関係者、地域からの情報の受信状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評議員会・評価懇話会の意見を学校運営に迅速に反映させる</li> <li>地域貢献の取り組み強化</li> <li>保護者との情報共有、意見、要望等を吸い上げる機会の拡充</li> <li>緊急連絡体制、手段の再整備</li> <li>学校HP運営体制の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートの回答全般(回答率、満足度、学校への要望等)</li> <li>地域貢献活動の内容、回数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校HPの学年当初からの閲覧数は昨年度より2ヶ月早く、12万件突破。保護者による記事が増えた</li> <li>交通安全、国際交流、震災支援等公共のイベント等に生徒が参加する機会が多かった</li> <li>保護者アンケートでの満足度は高水準を維持している</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者からの情報受信をさらに強化する</li> <li>学校評議員会・評価懇話会の意見を学校運営に反映させる</li> <li>情報発信体制の拡充</li> </ul>

実施日	平成24年2月7日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習(予習復習)時間が少なくとも対応できる授業である点が問題</li> <li>自由課題を決め、個人研究結果を発表させるなど自分で学ぶ訓練をさせたらどうか</li> <li>保護者の参加が増えるよう、授業公開のやり方に工夫が必要。PTA役員が運営にかかわることなどが考えられる</li> </ul>
せめて学校にいる間は身だしなみを徹底させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>身だしなみは学校外で目が行き届かないエリアでも取り組むべき</li> <li>生徒の携帯の使用時間が長い。どこかで歯止めが必要</li> </ul>
進路目標の見つけ方、そこに向かうステップに対する理解力が不足しているのでは	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年次から進路を意識させる取り組みを増やす必要がある</li> </ul>
1年生の保護者から進路に対する意識づけを	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校からのメール連絡がもっと頻繁にあっても良い</li> </ul>